

2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
人間健康学部 人間健康学科	教授	三好弥生
最終学歴	学位	専門分野
高知県立大学大学院人間生活学研究科人間生活学専攻後期博士課程	博士（社会福祉学）	社会福祉学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

真に信頼して事を任せうる人格の育成

【目標】

大目標：自分のもてる力をいかし社会貢献できる人材を育成する。

小目標：学生が自らの強みと弱みの両側面を認識できるようになる。

【方針】

学生として広く社会貢献とはどういうことかを知ると同時に、自己を認識できるよう教育する。

【計画（方法）】

ゼミでは、直接対話の時間を重視すると同時に、グループの力をいかし成長できるよう工夫する。
講義では、適宜社会貢献について具体的に言及していく。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

救急処置法、障害者福祉論、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

高齢者社会論、衛生学、社会福祉概論、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

○教育方法の実践

講義系の授業では、チームズを用いて学生の学びや質問を受け、翌週の初めに前回授業の振り返りをしつつ、これらについてフィードバックするようにした。結果、学生の興味関心や理解が把握できるようになり、授業内容に反映させることができるようになった。

○作成した教科書・教材

毎回パワーポイントで資料を作成し、配布として配布した。

○自己評価

着任3年目となり、毎回の授業内容のテーマを明確にして構成できるようになったと考える。

II 研究活動

○研究課題

A：「沖縄のゆいまーる精神に基づくみとりから学ぶ」

B：「施設職員の『演じる行為』に涵養するプログラムの開発」（研究分担者）

C：「ホームヘルパーが受けるハラスメントに関する研究」

○目標・計画

【目標】

- A：ゆいまーとは何か、概念を整理しつつ、沖縄における看取りの現状について先行研究や行政資料を収集し、整理する。
- B：予備調査の結果から、今後の研究について検討する。
- C：外部研究資金の獲得に向け、科研費助成事業に申請する。

【計画】

- A：先行研究や行政資料を収集し、整理する。
- B：共同研究者が実施した予備調査の分析について助言し、議論する。
- C：ホームヘルパーが受けるハラスメントの防止策をテーマとした研究計画を立案する。

○2017年4月から2025年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・伊藤優子・久保田トミ子・三好弥生・横山孝子編集「最新・介護福祉士養成講座9『介護過程 第2版』中央法規出版 2021年
- ・西尾敦史・大勝志津穂・尚爾華編著『人間健康学』唯学書房、2020年10月

（学術論文）

- ・辻真美・三好弥生・荒川泰士・下元桂子（2024）「ハラスメント事例に向き合うホームヘルパーの意識や思い」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』73,49-61.
- ・辻真美・三好弥生・岡京子・荒川泰士・下元桂子（2023）「ホームヘルパーが体験した最もつらく深刻なハラスメントー質問紙調査からの分析ー」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』72,59-72.
- ・Ketu Rie, Teruo Yokoi, Yayoi Miyoshi, Hiroyuki Watanabe, Toshihide Fukuda: Eating Behavior and Environments of Severe Alzheimer's Disease Patients With Loss of Language Skills :Brief Report. Gerontology & Geriatric Medicine Volume 8,1-8, 2022.
- ・辻真美・三好弥生・岡京子（2022）「ホームヘルパーが利用者から受けているハラスメントの実態と要因に関する研究ー研究の背景と今後の研究方針ー」『地域ケアリング』23（7）,57-59.
- ・Ketu Ri, Teruo Yokoi, Yayoi Miyoshi, Hiroyuki Watanabe, Toshihide Fukuda（2021） Caregivers' roles in preventing patients with severe Alzheimer's disease from becoming distracted during mealtimes:two case reports The Journal of Physical Science 33,711-716.
- ・辻真美・三好弥生・岡京子（2022）「訪問系のケアサービス従事者から受けるハラスメント発生要因に関する文献研究ーホームヘルパーと訪問看護師の比較からー」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』71,51-66.
- ・片岡妙子・田中眞希・宮上多加子・三好弥生（2022）「介護老人福祉施設の介護職員における『演じる行為』の特徴ー障害者入所施設との比較ー」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』71,67-78.
- ・辻真美・三好弥生・岡京子（2021）「介護従事者が利用者から受けるハラスメントに関する文献研究ーホームヘルパーに対するハラスメントの発生要因把握の手がかりとするためにー」『Humanismus』(32), 54-67.
- ・三好弥生・片岡妙子・武富純子（2021）「終末期に至る高齢者の食事摂取困難タイプ別ケアの基本と介助方法」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』70,77-85.
- ・三好弥生・片岡妙子・浅沼高志・武富純子・杉原優子（2020）「終末期に至る要介護高齢者の食事摂取困難の評価ーアンケート結果に基づく方法の見直しー」『年高知県立大学紀要社会福祉学部編』69,15-

24.

- ・ 三好弥生・片岡妙子・浅沼高志・武富純子・杉原優子（2019）「終末期に至る食事摂取困難事例の類型案」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』68,15-24.
- ・ 三好弥生（2017）「介護福祉士の看取りへの前向きな意識」『介護福祉教育』22（2）,12-19.
- ・ 上田恵理子・片岡妙子・三好弥生（2017）「特別支援学校の修学旅行同伴ボランティアの体験－福祉を学ぶ大学生の学び－」、『高知県立大学紀要社会福祉学部編』66,135-143.

(学会発表)

- ・ 辻真美・三好弥生「ホームヘルパーへのカスタマー・ハラスメント対策の課題」第30回日本介護福祉教育学会,2025年2月.
- ・ 辻真美・三好弥生・荒川泰士「ハラスメント事例に向き合うホームヘルパーのワーク・モチベーション」第29回日本介護福祉教育学会,2024年2月.
- ・ 辻真美・三好弥生・岡京子・荒川泰士「ホームヘルパーが受けるハラスメントについての実態報告」第30回日本介護福祉学会発表 Web 発表,2022年10月.
- ・ 辻真美・三好弥生・岡京子「ホームヘルプ労働におけるハラスメント発生要因に関する一考察」第26回日本在宅ケア学会 Web 発表,2021年6月.
- ・ 辻真美・三好弥生・岡京子・荒川泰士・小松妙・川田麻衣子「ホームヘルプサービスにおける自立支援・重度化防止にむけた取り組みへの課題－サービス提供責任者の語りからの分析－」第25回日本在宅ケア学会学術集会（高知）口頭発表,2020年6月.
- ・ 辻真美・三好弥生・岡京子・荒川泰士「自立支援・重度化防止を意識したホームヘルパーの関わり－老計第10号の改正をきっかけに－」平成29年度日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック大会（岡山）口頭発表,2020年2月.
- ・ 三好弥生・片岡妙子・杉原優子「終末期に至る高齢者における食事摂取困難の評価の再検討」第27回日本介護福祉学会（静岡）口頭発表,2019年9月.
- ・ 三好弥生「終末期に至る高齢者の食事摂取困難タイプ別介護方法の特徴－介護職員への聞き取りから－」令和元年度日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック大会（高知）口頭発表,2019年6月.
- ・ 李傑・三好弥生・横井輝夫「重度の認知症の人のケアについての一考察－メルロ・ポンティの身体性とギブソンのアフォーダンスから－」日本認知症ケア学会大会（京都）口頭発表,2019年6月.
- ・ 三好弥生「要介護高齢者が終末期に至る食事摂取困難の類型案」第13回高知県内3大学医工連携交流会（高知）口頭発表,2019年2月.
- ・ 片岡妙子・三好弥生「高齢者の脆弱性を知るための用語の整理」平成30年度日本介護福祉教育学会（仙台）口頭発表,2018年8月.
- ・ 三好弥生・片岡妙子・浅沼高志・武富純子・杉原優子「終末期における食事摂取困難事例類型化の試み」第24回日本介護福祉教育学会（東京）口頭発表,2018年2月.
- ・ 三好弥生「介護福祉士の高齢者を看取る過程における食事をめぐる葛藤」平成29年度日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック大会（広島）口頭発表,2017年7月.
- ・ 上田恵理子・片岡妙子・三好弥生「障害児と共に社会参加して得た学び」第23回日本介護福祉教育学会（金沢）口頭発表,2017年2月.

(特許)

なし

(その他)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

- ・田中眞希・宮上多加子・片岡妙子・三好弥生・小木曾真司 科学研究費助成事業（基盤研究（C）令和5年度～令和8年度） 研究課題名：「施設職員の『演じる行為』を涵養する研修プログラムの開発」（研究代表者：田中眞希）

○所属学会

- 日本社会福祉学会
日本介護福祉学会
日本介護福祉教育学会
日本サルコペニアフレイル学会

○自己評価

- A：先行研究の収集を試みたが、残念ながらテーマに即した具体的な文献が見当たらず進めることができなかった。
B：インタビュー調査の結果を得てコーディングを進めている。
C：ホームヘルパーが利用者から受けるカスタマーハラスメントを防止するガイドライン策定を目指して科研費助成の申請を行った。

III 大学運営

○目標・計画

【目標】

年間の教務委員会の業務内容が把握できるようになる。

【計画】

各学部の教務委員や教務課職員と積極的に関わる。

○学内委員等

教務委員会、FD・SD委員会

○自己評価

教務委員として2年目となり、学部ガイダンスの実施や演習配属など学部内の教務委員の役割を担うことができるようになった。また、FD・SD委員会では全学研修会で事例発表者として自らの授業におけるチームズの活用方法について紹介することができた。

IV 社会貢献

○目標・計画

【目標】

これまでの研究で得られた知見を様々な形で公表し、社会貢献に努める。

【計画】

学会での発表や学会誌への論文投稿を通して研究成果を公表する。

○学会活動等

なし

○地域連携・社会貢献等

なし

○自己評価

研究成果を学会発表することができた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

大学院修了者による自主ゼミに定期的に参加する。

VI 総括

着任して3年目となり本学の業務、環境に一定適応できるようになったと考える。今後、もう少し効率的に仕事を行い、思索する時間を捻出したいと思う。

以 上